

令和2年度 学校評価における自己評価の評価項目及び評価基準等

【本年度の重点目標】

- 1 常に「カイゼン」を意識した校務への取組
- 2 創造型実践技術者の育成を図る
- 3 授業力向上のためのICT教育の推進
- 4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る
- 5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

1 常に「カイゼン」を意識した校務への取組

No.	部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
1	教務部	各係内の業務カイゼン	係業務のカイゼン数とその効果	カイゼン数と係職員アンケート結果(2学期末)	A: カイゼン数合計10以上	なし	A	・ICT関連環境整備 ・朝の打合せ方式 ・コロナ対応における諸行事	多数のカイゼンが見られた。次年度以降もより一層カイゼン意識を高めて行きたい。
					B: カイゼン数合計8以上				
					C: カイゼン数合計5以上				
					D: カイゼン数合計4以下				
2	特活指導部	円滑な生徒会活動を意識したカイゼン	生徒会活動のカイゼン数	係職員アンケート結果とカイゼン数(2学期末)	A: 3つカイゼンできた	なし	B	コロナ禍で、時々刻々と変化する時代の中で、各行事において、係分担の明確化と作業内容の精選・効率化を図り、実践することができた。	コロナ禍で、中止になった行事も多い中、実施できた行事についても、継続的なカイゼンを進めるとともに、新しい試みについても浸透させていきたい。
					B: 2つカイゼンできた				
					C: 1つカイゼンできた				
					D: カイゼンなし				
3	生徒指導部	業務や内容の効果的なカイゼン	各係で分担を明確にさせ、業務のカイゼン数	年間の改善数で評価(2学期末)	A: 3つ以上	なし	B	各係において、科・部で連携を図れるようにカイゼンを実践できた。反省事項においても多くの先生方より2つ以上の改善が図れたと回答があった。	次年度以降も、例年通りにとらわれず、改善が図れるように努めていきたい。
					B: 2つ以上				
					C: 1つ以上				
					D: 0				
4	進路指導部	提示資料の内容・方法の改善	進路の手引きの内容や進路室資料の掲示方法を改善する。	年間を通じて改善できた項目数で評価する。	A: 3つ以上のカイゼン	なし	A	学校案内等の整理棚を変更し、単年度で入れ替えるようにした。進路の手引きに書き込みができるように変更した。分散登校時には、各科の実習室などでも求人票が閲覧できるようにした。	今後も進路指導室の利用や、進路の手引きの活用につながるようにカイゼンしていく。
					B: 2つ以上のカイゼン				
					C: 1つ以上のカイゼン				
					D: カイゼン数0				
5	健康安全指導部	各種感染症の積極的な予防、及びその意識向上	感染症予防の徹底を図る上で改善を図り、改善効果が認められた内容の有無	年間をとおして対応・改善を図り、それら内容を精査し効果が認められた割合(2学期末)	A: 9割以上効果が認められた	なし	A	年度始めより休校措置がとられたが、校内での感染防止諸対策を全校生徒に促すとともに、教職員の共通理解による指導の下、諸対策を進めることができた。	・生徒・教職員の共通理解による感染症予防対策のさらなる徹底・推進 ・関係諸機関との連絡・調整、及び生徒を通じた各家庭への周知と協力要請
					B: 8割以上効果があった				
					C: 6割で効果があった				
					D: 6割未満であった				
6	渉外部	効率を意識した業務のカイゼン	業務のカイゼン数	カイゼン数と係職員アンケート結果(2学期末)	A: カイゼン数が3つ以上	なし	A	新型コロナウイルス感染症の影響で活動事態は多くなかったが、時期に応じて、係・関係職員が協力して、業務のカイゼンができた。	状況に応じて、カイゼンすることにより、教職員・保護者にとって負担が軽減できる。
					B: カイゼン数が2つ				
					C: カイゼン数が1つ				
					D: カイゼンなし				
7	工業管理部	各科の特徴をいかしたカイゼン	各科の特徴をいかして校内施設のカイゼンを行う	年間の改善できた数(2学期末)	A: 5つ以上	なし	A	工場や作業教室の整理整頓・配置の見直しを行いカイゼンを行った。また教員の指導前の注意喚起徹底で事故発生件数が減った。飛沫パーテーションの設置や実習用のプレゼン製作を行った。	次年度も引き続き怪我の減少や実習室の使いやすさなどを目指しカイゼンを行っていく。
					B: 3つ以上				
					C: 1つ以上				
					D: 0				

8	機械科	実習における安全教育への意識向上	職員・生徒とも常に安全を意識し怪我や事故の防止に努める	怪我の件数の前年度比(2学期末)	A: 20%以上減	なし	A	実習担当者による、必要に応じた設備の修繕や整理整頓が行われカイゼンが進んだ。実習前の整列時の服装指導や、注意喚起を毎回行った。	教員間で互いに、危険予知に対する意識の向上と情報共有を行っていく。
					B: 10%以上減				
					C: ±10%未満				
					D: 10%以上増加				
9	生産機械科	安全に作業するための環境改善	安全に配慮した工場内の整理・整頓と実習時の事故防止	整理・整頓の実施状況 事故発生件数の減少 (一昨年度比・2学期末)	A: 実践状況良、事故等件数大幅減	なし	A	全体的な工場内の整理・整頓等改善。教員による指導前の注意喚起の徹底。 事故発生件数0。ヒヤリ1件	危険予知を教員の側から発信することへの重要性を今後も教職員側から徹底していく。
					B: 実践状況良、事故等件数減				
					C: 実践状況普、事故等件数減				
					D: 実践状況否、事故等件数増				
10	建設科	常に「カイゼン」を意識した校務への取組	実習室等の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動の状況	安全で効率的に作業が行えるように実習室等の環境づくりやルールづくりがされているか点検をし、カイゼンに取り組む(2学期末)	A: 実践された	なし	B	実習室の整理整頓。不必要な物は処分。実習に適した服装の指導。	不必要な物を処分したことにより、実習室の有効なスペースを広くすることができた。今後も維持管理につと。
					B: ある程度実践された				
					C: あまり実践されなかった				
					D: ほとんど実践されなかった				
11	電子科	実習内容の改善	1年から3年までの実習内容を改善し、さらに完成度を高める	改善した実習テーマ数(2学期末)	A: 5テーマ以上	なし	A	・1年生:実習指導用プレゼンテーションの作成(13テーマ) ・2年生:実習内容の見直し改善(4テーマ) ・3年生:技術コンクール内容の見直し改善(2テーマ)	実習内容の改善によりスムーズな授業展開ができた。さらに時代に合った内容に改善検討していく
					B: 3テーマ以上				
					C: 1テーマ以上				
					D: 0				
12	1学年	携帯電話等のマナー向上	毎朝のSHR時および巡回の際における指導の徹底により、マナーの向上を図る	規定違反者数(2学期末)	A: 8名以下	なし	C	規定違反者数は4クラスで24名であった。1学期に比べ、学校生活にも慣れた2学期に増加がみられた。	各個の意識の差も大きいと感じられることから、マナーを意識する雰囲気クラスとして作れるようにしたい。
					B: 9～16名				
					C: 17～24名				
					D: 25名以上				
13	2学年	携帯電話等のマナー向上	毎朝のSHR時および巡回の際における指導の徹底により、マナーの向上を図る	規定違反者数(2学期末)	A: 8名以下	なし	B	規定違反者数は10名で、1年次(25名以上)と比べると減少した。	携帯電話等のマナー、モラルの向上が高まったと思われる。より一層の向上を図るため指導していく。
					B: 9～16名				
					C: 17～24名				
					D: 25名以上				
14	3学年	携帯電話等のマナー向上	毎朝のSHR時および巡回の際における指導の徹底により、マナーの向上を図る	規定違反者数(2学期末)	A: 8名以下	なし	B	規定違反者数は11名で、2年次(25名)と比べると減少した。	携帯電話等のマナーやモラルが高まったと思われる。更に向上を図るため、粘り強く指導していく。
					B: 9～16名				
					C: 17～24名				
					D: 25名以上				

2 創造型実践技術者の育成を図る

No.	部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
1	学習指導部	望ましい学習環境の確立	生徒が授業に取り組む姿勢	準備をして、授業にしっかり取り組んでいる生徒の割合(教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 80%以上	なし	B	昨年度の同様の調査における割合よりも3.0%向上した。	クラス・教科・授業形態による授業態度の差が大きい。80%を超えるように、今後も継続して指導方法を工夫していきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				
2	特活指導部	学校組織を意識した行事運営	生徒会役員がリーダーシップを発揮して行事運営ができたか	リーダーシップを発揮したと実感できた生徒の割合(各行事の振り返りアンケート調査・2学期末)	A: 80%以上	なし	A	各行事ごとに担当する業務を会長中心とした組織で、積極的に行動し、会長へ進捗状況等を報告し、責任感を持って行動できる生徒が増えた。	新生徒会役員に引き継いだ後も、会長を中心とした組織を保てるような指導を進めていきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				

3	生徒指導部	規則正しい生活習慣の徹底	生徒指導の実践(教員)及び生徒のマナー向上(生徒の姿勢)	携帯電話等の正しい使い方の定着を実践できた教員の割合、学校生活にしっかり取り組んでいる生徒の割合(教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 80%以上	なし	B	概ねマナーやルールは実践できているが、放課後の使用が指摘されている。特別指導等においては、指導数は減少しているが、ネットにおける指導が増えてきている傾向である。	携帯電話等及び生徒の取り組み姿勢においては、継続して定着が図れるように、今後も指導を行っていきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				
4	工業管理部	ものづくりを通して課題解決力の向上と、社会が求める人材の育成	各種工業関係大会への積極的参加	大会での入賞数(2学期末)	A: 前年度より2割以上多い	なし	C	今年度はコロナ禍で各種大会が中止となり、参加および入賞者数は減少した。でも少数ながら実施した大会には積極的に参加した。	コロナ終息を願いつつ、教員のスキルアップをはかり各種大会に積極的な参加と大会で入賞数増につなげたい。
					B: 同数～2割未満多い				
					C: 2割未満少ない				
					D: 2割以上少ない				
5	機械科	専門的技術の習得と努力する姿勢の育成	各種資格試験へのチャレンジ	各種資格試験の合格率(2学期末)	A: 75%以上	なし	A	新型コロナウイルス感染症の影響があり前期の技能検定が中止になってしまったが、受検した各種資格試験の合格率は、良好であった。	全体の合格率を上げるためには、教員間の指導体制のカイゼンを行っていく必要がある。
					B: 65%以上				
					C: 50%以上				
					D: 50%未満				
6	生産機械科	自ら考え技能向上に取り組む人材の育成	各種資格試験へのチャレンジ	各種資格試験の合格率(2学期末)	A: 70%以上	なし	A	検定試験については昨年比で合格率が増加の傾向がみられる。	受検者全員が合格できるよう、資格試験対策の学科全体としての取り組みを検討していききたい。
					B: 60%以上				
					C: 50%以上				
					D: 50%未満				
7	建設科	生徒に必要な技術・技能を習得させる。自己啓発の一環として資格試験等に挑戦させる	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の割合	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の合計(2学期末)	A: 90%以上	なし	B	新型コロナウイルスの影響で、資格試験やコンテストの中止により、参加者数の割合は減少したが、2級建築大工技能検定など難しい資格への挑戦者は増加した。	資格試験等の指導を改善し、施工管理技士の資格では、合格者が増加した。今後も教員間で連携して取り組みたい。
					B: 70%以上				
					C: 50%以上				
					D: 50%未満				
8	電子科	資格試験合格のため適切な支援を行い、より高度な資格に挑戦させる。	家庭学習の習慣化を目指し、適度な課題等を出題する。	資格取得の合格率(2学期末)	A: 75%以上	なし	A	コロナ禍の影響で、資格試験等の日程の変更もあり、指導も当初予定していた計画と変わってしまい指導時間の確保など改善した。	資格試験等の指導を改善し、第2種電気工事士95%、DD3種80%の合格率であった。
					B: 65%以上				
					C: 50%以上				
					D: 50%未満				
9	1学年	自己実現に向けての基礎的な知識・技能の習得	各自での目標設定および自己評価アンケートを実施	各自が設定した目標に対する実現度(2学期末)	A: 目標到達度90%以上	なし	B	今年度より新たに実施し、結果は平均80%であった。	意識付けとしては一定の効果は得られたが、評価や支援については不明瞭な点も多かった。同じく今年度スタートのキャリアパスポートと組み合わせて今後の在り方を検討していききたい。
					B: 目標到達度80%以上				
					C: 目標到達度70%以上				
					D: 目標到達度70%未満				
10	2学年	自己実現に向けての専門的な知識・技能の向上	各自での目標設定および自己評価アンケートを実施	各自が設定した目標に対する実現度(2学期末)	A: 目標到達度90%以上	なし	C	学年平均で79%であった。各自が自己実現に向けて考える機会が得られた。	来年度は、進路実現に向けての意識付けに取り組むたい。
					B: 目標到達度80%以上				
					C: 目標到達度70%以上				
					D: 目標到達度70%未満				
11	3学年	希望進路の実現	進路実現に関するアンケートを実施	進路実現満足度の調査(2学期末)	A: 満足度90%以上	なし	A	アンケート結果により、進路実現に向けた満足度が97.5%であった。	生徒主体の進路指導を実践してきたことが、このような結果に結びついたと考えられる。新年度、各進路先でよいスタートができるよう、指導を継続していききたい。
					B: 満足度80%以上				
					C: 満足度70%以上				
					D: 満足度70%未満				

3 授業力向上のためのICT教育の推進

No.	部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
1	学習指導部	ICTを活用した学習活動の推進	ICTを積極的に活用した授業を実施しているか。	ICTを活用した授業を実施できた教員の割合 (教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 60%以上	なし	A	ICT機器が整備されつつあり、ICT推進係により研修も活発になされている。	生徒へのICT機器の配備がより進み、授業の実践例が構築されるよう努める。
					B: 40%以上				
					C: 20%以上				
					D: 20%未満				
2	機械科	ICTを活用した学習活動	ICTを活用した授業を実施しているか。	ICTを活用した授業を実施できた教員の割合 (教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 70%以上	なし	A	座学では全員が活用できているが、実習の内容によっては難しい面がある。	ICT機器の充実と、教員間での相互研修により、活用する機会が増え生徒の理解度が向上すると考える。
					B: 50%以上				
					C: 30%以上				
					D: 30%未満				
3	生産機械科	ICTを活用した学習活動	ICTを活用した授業を実施しているか	ICTを活用した授業を実施できた教員の割合 (教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 70%以上	なし	A	休校期間の課題提示に始まり、再開後においても昨年比で大幅な活用がなされた。	ICT機器の学校全体の準備数が少ないことから、なかなかある程度以上の使用にはならないと考えられる。環境の整備に課題が残るが、今後順次整備されることで、改善されていくのではないかと。
					B: 50%以上				
					C: 30%以上				
					D: 30%未満				
4	建設科	指導方法の工夫改善	ICTを活用した授業の割合	建設科職員の年間の授業時間におけるICTを活用した割合(2学期末)	A: 50%以上	なし	B	アンケートでは、ある程度ICTを活用できたと回答した科の教員が多かった。	教員間で互いにデータ等を共有し、さらにICTを活用して、授業を展開しやすくなるように改善する。
					B: 30%以上				
					C: 20%以上				
					D: 20%未満				
5	電子科	ICTを活用した授業の展開	ICTを活用した授業を実施しているか	アンケートにより授業でICTを活用した教員の割合(2学期末)	A: 60%以上	なし	A	実習指導、資格試験(第2種電気工事士)、各専門教科授業等のプレゼンテーションや電子科入口の情報発信システム装置の製作など改善ができた。(6人中6名が実施できた)	ICT機器の環境も整い始めたが、ICT機器整備の課題もまだ残され、順次整備されていくことで、改善されていくのではないかと。
					B: 40%以上				
					C: 20%以上				
					D: 20%未満				

4 常に生徒との信頼関係を意識した教育活動を図る

No.	部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
1	教務部	情報発信機会の増加	ホームページ・メール・クラスだより等の情報発信機会の推奨	月別情報発信平均数(2学期末)	A: 月間20件以上の発信	なし	A	毎日のようにホームページへ記事が投稿されている。コロナ禍における様々な分かり易い情報を提供できた。	Zoomを用いたりモット学習環境を整備していきたい。
					B: 月間15件以上の発信				
					C: 月間10件以上の発信				
					D: 月間9件以下の発信				
2	学習指導部	生徒理解に立った教科指導による基礎学力の確実な習得	生徒の実態を考慮した教科指導の実践	生徒理解に立った教科指導を実践できた教員の割合 (教員へのアンケート調査・2学期末)	A: 80%以上	なし	A	昨年度の割合と同程度であり、良好な結果であった。	今後も生徒理解に向けて、授業評価アンケートや校内授業見学等間のさらなる活用を喚起していきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				
3	特活指導部	各行事担当の職員と生徒との連携を図る	職員と生徒会生徒による円滑な行事運営の実践	各担当職員が、生徒との連携を図ることができた実感できた職員の割合 (各行事の振り返りアンケートより評価)	A: 80%以上	なし	B	担当職員の働きかけやきめ細やかな計画により、おおむね良好に実践できた。生徒からは「モストレーションをしっかりと行えたので。スムーズな進行ができた」との意見もあった。	コロナ禍の中で、時間に追われながら準備を進めることもあり、生徒の心身のストレスが高い時期があった。各行事の前に担当職員との打合せを持てるよう努めたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				

4	生徒指導部	チーム支援体制の確立	生徒理解に基づく生徒指導の実践	生徒理解に立った生徒指導を 実践できた教員の割合 (教員へのアンケート調査・2学 期末)	A: 80%以上	なし	B	昨年度と同様なアンケート 結果であった。	科・学年・教員間での支援 体制が図れるように、次年 度以降も働きかけていき たい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				
5	進路指導部	自主的に進路選 択ができるよう な、進路情報を 提供する	進路資料、進路学習会、 進路室資料提示。	各項目の合計数で評価す る。 (2学期末)	A: 10以上	なし	A	資料提示の変更や、進路室 開放で、進路指導室の利用 が大幅に増加した。10月以 降、8回の進路学習会を実 施できた。	生徒の要望答えられるよう に、様々な進路情報の提供 に努めたい。
					B: 8以上				
					C: 5以上				
					D: 4以下				
6	健康安全 指導部	生活環境美化の 充実	生活環境の美化意識向上 のための点検実施(各HR 等)	生徒会整備委員とのタイ アップによる点検活動によ る評価 (2学期末)	A: 9割以上の評価	なし	B	7月から点検を実施。清掃に 加え共有物品等の消毒も追加 実施。 点検活動による意識向上に加 え、感染防止の意識も加わり 美化意識の向上が図られた。	点検活動による美化意識は向 上。教室以外の共有スペース (廊下・階段・昇降口等)の意 識強化にも努める。
					B: 8割以上の評価				
					C: 6割以上の評価				
					D: 5割以下の評価				
7	電子科	専門教科指導に よる基礎学力の 習得	生徒の興味・関心のある 内容を考慮した教科指導 の実践	専門教科における生徒理 解度の割合 (授業アンケート調査・2学 期末)	A: 80%以上	なし	A	ICT機器を使ったことで、授 業への生徒の興味関心が 高まった結果がえられた。 (88%)	今後も生徒の興味関心向 上に、授業評価アンケート 等を活用し、生徒へ喚起を していきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				
8	1学年	学期ごとの面談 の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確 認 (各学期末)	A: 各クラス3回以上実施	なし	C	各クラス生徒全員に対して は学期1回の実施となった が、各担任、適宜、状況に 応じた生徒への面談・支援・ 指導等は実践できた。	今後も全員との定期面談と 状況に応じた個人面談を並 行し、生徒理解と信頼関係 の構築に努めたい。
					B: 各クラス2回以上実施				
					C: 各クラス1回以上実施				
					D: 実施していない				
9	2学年	学期ごとの面談 の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確 認(各学期末)	A: 各クラス3回以上実施	なし	B	個人面談を2回実施した。	今後、生徒全員との面談 と、進路関係など必要時に 行う面談とを実施していく ことで、信頼関係の向上を 図っていきたい。
					B: 各クラス2回以上実施				
					C: 各クラス1回以上実施				
					D: 実施していない				
10	3学年	学期ごとの面談 の実施	面談の回数	各担任に面談の回数の確 認(各学期末)	A: 各クラス3回以上実施	なし	A	個人面談を3回以上実施 した。	進路決定の年でもあり、適 宜必要な時に面談を実施 した。生徒理解や信頼関係 構築にも効果があった。
					B: 各クラス2回以上実施				
					C: 各クラス1回以上実施				
					D: 実施していない				

5 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくりに努める

No.	部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	評価結果	改善されたこと	結果から見た改善策
1	教務部	部職員の連携を 充実させ、協力し ながら学校行事 等の運営にあた る	学校行事の準備・運営等 での連携・協力体制の状 況	部職員へのアンケート調 査 (2学期末)	A: 80%以上の職員ができた	なし	B	係主任が担う業務内容を係 全体で理解しながら企画運 営する機会が増加した。	次期主任候補者の育成を 強化していきたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 59%以下				
2	特活指導部	チーム支援体制 の確立	職員間が連携した生徒会 行事の準備・運営への支 援・指導と次年度への引 き継ぎ	連携が実践できた教員の 割合 (各行事の振り返りアン ケートより評価)	A: 80%以上	なし	B	各自が主を務める業務につ いては、その業務の中心とし て、準備から実行まで責任を 持つて行うことができた。	中心となる職員に負担が偏 ることも感じられた。係間の 声掛けや情報共有、引き継 ぎができるよう努めたい。
					B: 70%以上				
					C: 60%以上				
					D: 60%未満				

3	進路指導部	役割分担の明確化	各係の仕事内容の明確化 負担の公平化	各係主任に調査を行う (2学期末)	A: 全ての係ができた B: 8割以上でできた C: 5割以上でできた D: 5割以下であった	なし	B	就職係、進学係で分担して取り組めた。求人受付時や、平時の進路室当番でも分担できた。	学年ごとの進路ガイダンスなど、分担できていない係もあるので、内容に応じて分担し、仕事の偏りを減らしていきたい。
4	工業管理部	学科間連携を充実させる	工業関連行事等での協力体制の状況	工業科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 90%以上の職員ができた B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	なし	A	アンケートの結果により、工業科教員のほとんどが学科間の連携を図り互いに協力できたと回答している。	打合せを密に行い、今後も協力体制を維持していきたい。
5	機械科	教員間の連携を充実させる	科内の行事や授業等での連携・協力体制の状況	科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 70%以上の職員ができた B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	なし	A	今年度担当の電気自動車大会では、機械系の職員に限らず、生徒や他科の職員も協力的であったおかげで、比較的スムーズに実施できた。	今年度は多くの行事が、中止になってしまいました。今後も互いに理解し合えるよう連携・協力体制を維持したい。
6	生産機械科	教員間の連携を充実させ、協力しながら学科の運営にあたる	科内行事や授業等での連携・協力体制の状況	科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 70%以上の職員ができた B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	なし	A	生徒に関する情報の共有が、科の打合せ以外でもできている。	各行事への取組や、職員間の協力体制は十分な状況である。今後も、生徒を第一に考えた科としての体制維持を心掛けていく。
7	建設科	教員間で連携し、互いに協力して運営にあたる	建設科における行事や授業での連携と協力体制の状況	科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 70%以上の職員ができた B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	なし	A	科の行事や授業、生徒の資格取得の指導等で、教員間の連携が十分図られた。	今後も引き続き、教員間で連携して、生徒指導にあたりたい。
8	電子科	職員間の連携を図り、協力しながら学科の運営にあたる	連携や協力体制の強化	科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 連携や協力体制が十分とれた B: 連携や協力体制がとれた C: 連携や協力体制がほぼとれた D: 連携や協力体制がとれなかった	なし	A	生徒に関しての情報など各先生方と共有ができた。	各教科の先生方もさらに情報提供できる環境づくりをしていきたい。
9	1学年	担任間で連携を図り、円滑な学年運営に取り組む	情報共有	各担任への調査(2学期末)	A: 情報共有が完璧にできた B: 情報共有ができた C: 情報共有がほぼできた D: 情報共有ができていない	A: 情報共有ができた B: おおむねできた C: 余りできなかった D: できなかった	A	4人とも情報共有ができたとの回答が得られた。	今後も、適宜、担任打合せや校内LANなどの活用で情報共有と連携を図り、円滑な学年運営と生徒指導に努めていきたい。
10	2学年	各担任間で連携を図りながら、円滑な学年運営に取り組む	情報共有	各担任への調査(2学期末)	A: 情報共有が完璧にできた B: 情報共有ができた C: 情報共有がほぼできた D: 情報共有ができていない	なし	B	アンケート結果により、4人とも情報共有ができたと回答している。	今後も、担任打合せや校内LANなどで情報を共有し、円滑な学年運営に努めていきたい。
11	3学年	各担任間で連携を図りながら、円滑な学年運営に取り組む	情報共有	各担任への調査(2学期末)	A: 情報共有が完璧にできた B: 情報共有ができた C: 情報共有がほぼできた D: 情報共有ができていない	なし	B	アンケート結果により、4人とも情報共有ができたと回答している。	週に1回、担任・進路打合せを実施することで、情報共有が図ることができた。校務LANなども活用し、時間を短縮しながら更なる情報共有に努めていきたい。